

<授業実践例：小学校1（学級活動）>

1 指導内容と授業展開例

☆対象：小学生（低学年 子どもたちの実態に応じて、工夫して扱う）

☆「放射線問題から考えよう（情報に迷わされず適切な判断ができるようにするために）」

☆扱い：学級活動 【小学校（2）-カ】

1時間扱い（実践例：小学校2及び地震時の避難訓練に関連付けて実施する）

(1) ねらい

原発事故から放射線問題を取り上げ、放射線についての正しい知識や理解を図るとともに、放射線について考え、多様な情報に迷わされることなく適切に判断することができる。

(2) 内容

身のまわりの放射線の存在を知る（放射線の理解）

(3) 展開例 「放射線問題から考えよう」（対象：小学生【安全・防災】）

学習活動	留意点（・） 支援（○） 評価（★）
1 「放射線の問題でこまっている人たちがいますが、知っていますか？」 ・どんなことで困っているのか、知っていることや聞いたことなどを発表する。 (5分)	○子どもたちが発言させたことを板書し、放射線問題についての知識や理解度を把握する。（事前にアンケート等も有効） ・家に帰れない ・将来、病気になる ・野菜が売れない ・家族が離れ離れ など
2 放射線問題が起こった事実を知る。 【資料②】 (5分)	○導入資料（写真）を見せる。 ・実態を踏まえ、写真の扱いには配慮する。 ・写真の説明は地震、津波、原発事故が起こった事実のみで、詳しく説明しなくてよい。
3 「放射線とは何？」 放射線について知る 【資料③：放射線の基礎知識】 【副読本】 (15分)	○放射線について、副読本(p 3～p 8)を用いて、 ①～③について説明する。 ①「放射線ってどんなもの」 ② 身のまわりの放射線 （宇宙、地面、空気、食べ物からも少量） ③放射線の利用(医療、発電、研究開発等) ・パワーポイント(放射線)を参考に、絵やカードを用いるとよい。 <注意・配慮事項> ※「量によって危険なものになるので、治療等の利用であっても扱うときには注意が必要」 ※「少量でも100%安全なものではない」が、不

	<p>安をあおるような言い方はさける</p> <p>★放射線が身近にもあること、病気の治療に使われていること、事故等で多量に放出された場合は危険であることを理解している。</p>
<p>4 学校での放射線の量について考える。(10分)</p> <p>(病院での胸の X 線撮影、自然放射線の量と現在の学校での放射線の量をくらべる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校内の測定結果一覧(地図) ・教師用副読本、p12 の放射線被ばく図 ・副読本 p11 のリボンの長さで考える <p>【資料④】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校敷地内の測定結果は事実示す。 ・どこが高いかを伝えてよいが、理由も必ず伝える。 	<p>○副読本解説編(教師用)(p12)の「身の回りの放射線被ばく」や群馬県空間放射線量平常値(http://www.pref.gunma.jp/05/e0900020.html)を参考に、リボンの長さなどで示せるとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校の敷地内を測定したデータを扱う場合は環境省が示す毎時 0.23 マイクロシーベルト未満を基準とする。 ・副読本(p12)に書いてあるように、「私たちは、自然にある放射線や病院のエックス線(レントゲン)撮影などによって受ける放射線の量で健康的な暮らしができなくなるようなことを心配する必要はありません。」を確認しておく。 <p>★結果から、現在の学校での放射線の量は、あまり心配しなくてもよいことに気付いている。</p>
<p>5 これからどうすればよいかを考える。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射線問題で、自分たちができそうなこと。 ・これからの学校生活で、気をつけていくこと。 <p><考えの例></p> <ul style="list-style-type: none"> ※ニュースを見ているんなことを知る ※親や先生に聞いて確かめる ※うわさで決め付けたり、差別をしたりしない。 ※信用できる大人の言う事を聞いてすばやく行動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線は、身近にも存在していること。 ・今回の事故で放射性物質が多量に放出したため、様々な問題が起こったこと。 ・放射線の測定結果をよく見て、場合によっては放射線に気をつけなければならないこと。 ・様々な情報により、被災者や避難者へ偏見をもってしまったこと。 <p>○上の 4 点をまとめてから、いろいろな情報に対して、どのように対応していったらよいか考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生と子どもたちみんなで考える。 ・考えたことを板書して、皆で確認する。 <p>★どのように対応したらよいかを書いている。</p>

<注意事項>

※放射線が人体に与える影響などについては、諸説あることを踏まえ、最新の情報を補足するなどして、児童生徒に過度の安心感や不安感を与えないよう、適切に活用すること。

※教師用解説書を参考に、児童の実態に応じて適切に活用すること。

<授業実践例：小学校2（学級活動）>

1 指導内容と授業展開例

☆対象：小学生（低学年 実態に応じて、扱い方を工夫する）

☆「災害などの危険から身を守るために」

☆扱い：学級活動 【小学校（2）-カ】

1時間扱い（地震時の避難訓練に関連付けて実施する）

(1) ねらい


地震、放射線などの災害や事故が発生した場合、どのように対処するのかを考え、危険を回避するための対応や行動の取り方を理解し、適切な判断をすることができる。

(2) 内容

災害（原発事故を含）からの身の守り方（危険を回避する能力）

(3) 展開例 「災害などの危険から身を守るために」 （対象：小学生【安全・防災】）

学習活動	留意点（・） 支援（○） 評価（★）
1 身近に起こっている又は発生たことのある災害や事故について知る。 (5分)	・子どもたちが発言させたことを板書し、災害や事故についての知識や理解度を把握する。 (事前にアンケート結果や教師が準備した資料などと比較させたりして、問題の意識化を図る)
2 場所によって対応が違うことに気付く。(地震に限定する) (5分)	○子どもたちの活動場所などを想起させて、どんな場所があるかを考えさせる。 例：教室、体育館、校庭、特別教室 下校中など ○地震後に発生した身近な災害として放射線問題を取り上げる。 ・放射線についても考えさせる
3 地震発生時に危険にあわないようにするためには、どのようにしたらよいかを、場面を例に挙げて一緒に考える。 (12分)	○先生と一緒に考える ○グループごとに話し合いができる場合は、場所を分担し5分くらい考えさせる。 ○考えたことや発表されたことは、模造紙等にまとめて、授業後に掲示し、防災メモの作成の参考資料にする。
<例> ・教室、校庭、体育館、下校中、放射線 「落ちてこない、倒れてこない、移動し	○「まとめ例、防災メモ例」を参考にする。 ・放射線については児童が考えられれば取り

<p>てこない」場所に！ が基本</p>	<p>上げるが、考えられない場合は、次の場面で先生と一緒に考えさせながら扱う。 ★危険を回避するために対応を具体的に考えている。</p>
<p>4 地震時の場所ごとの対応のまとめと放射線の対応について先生の話しを聞く。 (15分)</p> 	<p>○危険を回避するためのポイントを示す。 ・先生がいる場合は避難誘導指示を聞く ・安全な場所へ（落下物、転倒物のない場所） ・自分で確かめ、対応を具体的に考えておく ・避難訓練時に実践する ○放射線については、副読本（p15、p16）を参考にする。</p>
<p>5 地震発生時の対応の仕方や避難の仕方についてまとめる。 (8分)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>避難訓練の必要性や避難訓練は危険に合わないようにするための方法を確認する場であることに気付かせることが大切。</p> </div>	<p>○地震発生時の対応を理解させ、避難訓練時の具体的な対応と心構えをもたせる。 ・本時の学習内容やまとめた模造紙等を基に、防災メモを作成する。 ・防災メモは家庭に持ち帰らせ、保護者に確認させ完成させるとともに、意識の高揚を図る。 ・避難訓練の心構えと具体的な対応を明らかにさせることで、訓練の必要性を実感させる。 ★具体的な対応や訓練に向けての心構えを考えている。</p>

<注意事項>

※放射線が人体に与える影響などについては、諸説あることを踏まえ、最新の情報を補足するなどして、児童生徒に過度の安心感や不安感を与えないよう、適切に活用すること。

※教師用解説書を参考に、児童生徒の実態に応じて適切に活用すること。

<今後の学習>

※本学習を避難訓練と関連させるとよい。

※避難のしかたを確認しよう 「地震発生！→安全な場所は？」（防災メモ）につながるようにする。

<まとめ例：板書又は模造紙>

授業後に、防災メモの作成や意識を高めることを考えると掲示できるような形にすると効果的な活用が図れる。

「地震がはっせいしたときの危険を予測して、じぶんを守るための方法をかんがえよう」

【きょうしつ】



【こうてい】

場所をイメージさせるためには、学校写真を入れるとよい

【たいいくかん】

【とうげこう中】



ひなんのしかたをかくにんしよう 「地震発生！→安全な場所は？」（防災メモ例）

～～『落ちてこない・倒れてこない・移動してこない』場所に！～～

【きょうしつ】	【こうてい】
【たいいくかん】	【とうげこう中】

【^{かぞく}家族でかくにんしておこう】

家族の集合場所	
ひなん場所	
じちかい名	

<家からひなん場所までの地図（ひなん路も確認）>

【きんきゅう時のれんらく先】

学 校		病院案内(前橋消防局)	027-221-0099
〇〇消防局		前橋市役所(代表)	027-224-1111
〇〇警察署		〇〇〇	

